令和４年度「ながの未来トーク」集約表

開催日：令和４年 11 月 10 日（木）　午後２時 ～３時　　会場：小田切農村環境改善センター
地元参加者：26 人（男性 21 人、女性５人）
市側出席者：荻原市長、下平企画政策部長、中村商工観光部長、横田建設部長、藤澤教育次長、宮下危機管理防災課長、山岸小田切支所長
集約担当：小田切支所
会議形態：未来トーク方式

【議題に関する会議】

＜１　土砂災害対策（防止措置と情報収集）と復旧の公的支援について＞

《提　案》

先日大雨があり、所々土砂災害が発生した。夜中であったが支所長はじめ担当者に迅速に対応いただいた。感謝申し上げる。

小田切地区は広範囲に小集落が点在しており、その多くが土砂災害危険区域であることに加え、市内で唯一の大規模盛土造成地も存在することから、全域で土砂災害の危険度が高いが、局所的な豪雨の際は、狭い範囲での雨量などの災害関連情報が必要であるため、雨量計の増設などによる災害関連情報の拡充を望みたい。

地区内各危険個所の崩落防止対策の現状並びに今後の方針を伺うとともに、土砂崩落発生時の復旧にかかる費用負担について、公道私道の別や農地の有無などの条件により違いがあると思うが、公的支援の在り方について伺いたい。

《回　答》

雨量計増設のご要望をいただいたが、今年も局所的な豪雨により土砂災害のリスクが高くなることが度々あったことから、ご心配は当然のことと受け止めている。

避難情報を発令するには、まず、気象庁のホームページで公表している「キキクル」という防災気象情報の画面から、雨雲の動きや土砂災害について１㎞メッシュで市内のどこで危険度が高くなっているかを注視する。

土砂災害に警戒が必要な地域がある場合には、長野県河川防災ステーションのホームページで公表されている土砂メッシュを確認している。メッシュごとに 60 分雨量の予測（縦軸）と、これまでの降雨による土壌雨量指数（横軸）によりスネークラインとよばれる危険度予測が表示されている。スネークラインが、２時間先に、赤色のエリア（警戒情報）から紫色のエリア（厳重警戒情報）に達すると、原則的に「土砂災害警戒情報」が発表され、市は避難指示を発令することになる。

土砂災害の危険度については、地域の地形に加えて、これまでに降った雨量と、これから降るであろう雨量で判断することをご理解いただきたい。これから降るであろう雨量については、気象庁や国土交通省の気象レーダーの観測データと雨量計のデータ等を組み合わせて、１㎞メッシュの細かさで解析しているが、今年の夏の豪雨などで、気象観測の精度は年々向上していると実感している。

現在、市内に設置の雨量計は、市が設置した 26 カ所、国設置が８カ所、県設置が 32 カ所、合計 66 カ所あり、小田切地区には市が設置した富士の塔局がある。雨量計は正確な雨量を観測することができるため、災害発生後の検証等に重要な役割を持っているが、今後の雨量を予測することは出来ず、それだけでは災害リスクを把握することは出来ないことになる。また、雨が強く降っていなくても、それ以前に降った雨が地中にたまっているような場合には、少しの雨でも「土砂災害警戒情報」が発表されることもある。

近年、異常気象による災害が全国的に頻発しており、今後も雨量計だけでなくさまざまな機器や技術の革新により、防災気象情報の精度向上が図られるものと考えている。皆さまには気象庁の「キキクル」や、県の土砂災害危険度メッシュの情報なども確認いただき、またハザードマップでお住まいの地域の状況なども確認いただきながら、引き続き大雨警報などの防災気象情報に注意いただくとともに、市が発令する避難情報なども注意していただくようお願いする。本市も、市民の皆さまの生命・身体・財産を守るために、警戒を怠ることなく、適時・適切な避難情報等を発令していく。

〔宮下危機管理防災課長〕

各地区の危険箇所の崩落防止対策については、地すべり防止区域等の管理機関である長野県土尻川砂防事務所において、毎年現地調査を行い、対策を必要とする箇所の工事を実施している。県からは、現在事業化している西裾花台・地蔵平の急傾斜地崩壊対策事業については、令和６年度の完成を目標に鋭意事業を進めていると聞いている。

市としては、各地区からの地すべり防止対策や急傾斜地崩壊対策等の要望を取りまとめ、９月に県へ提出したところである。小田切地区では、10 月に要望に基づく現地調査が実施された。今後、県から示される対策工事の必要性や継続的な経過観察等の方針（調査結果）については、支所を通じてお伝えしていく。

また、県からは、新たに令和５年度から砂防メンテナンス事業を進めると聞いている。この事業は、老朽化対策が必要な砂防施設について、計画的に対策を実施することにより、施設機能を確保し、長寿命化を図ることを目的としている。小田切地区では、明治 38 年に砂防指定地となった、日方の三分市沢で、土石流の流出を防止するため、床固工や護岸工を実施すると聞いている。

小田切地区では、このような箇所が散見されるので、市としては県に要望をしっかりと伝えていく。

次に、災害により農地復旧事業が必要な場合は、長野市土地改良事業分担金等徴収条例に定める率の分担金をご負担していただくことで、復旧工事を行うことができる。分担金の率は、農地復旧事業費の 10%以内としているが、国が激甚災害の指定をするような大規模な災害は、国庫の補助率が嵩上げとなることから分担金も変動する場合がある。

市道、河川、および農業用施設等（農道・用水路）の災害復旧には、個人での費用負担はない。

個人敷地の被災復旧については、原則として個人負担となる。ただし、被災発生場所が急傾斜地崩壊危険区域、砂防指定地および地すべり防止区域に指定されていると、国、県および市において、対策事業や災害復旧事業を実施する場合がある。また、市では、上記の各事業に該当しない箇所について、人命に危害が生ずるおそれのある急傾斜地に隣接した家屋等の安全を図るため、一定の条件を満たしていれば、法面保護等の整備に要する経費に対し、工事設計額の２分の１以内で限度額 100 万円の補助金を交付する制度（長野市急傾斜地等整備事業補助金交付制度）を設けている。小田切地区では今年度も１件活用されていることから、引き続き補助制度利用の促進を図りたいと考えている。

今後も県と連携しながら土砂災害の防止に努めてまいりたい。

〔横田建設部長〕

令和４年度「ながの未来トーク」集約表

《質　問》
　県の雨量観測施設に「川後」があるが、現在機能しているのか。データはどこで確認できるか。

《回　答》
　機能しており、長野建設事務所 HP 内の「道路情報-気象情報」で確認できるが、市の防災ポータルからは確認できない

〔宮下危機管理防災課長〕

《質　問》
　小田切地区は道が山間部を縫ってくるような状況であり、土砂災害が起きる前に倒木等により停電してしまうことも過去にあった。倒木により道路が寸断されることもあり、将来的にはそういう危険が更に増えるのではないかと思われる。
　災害が起きる前段として、特に当地区は倒木によってインフラが使えなくなる危機を持っていることを心配していただきたい。

《回　答》
　どこの中山間地でも同じようなご意見をいただいている。市道も県道も倒木等で通行止めになることが非常に多い。
　行政としては木が倒れるまでは手が出せない部分もあるが、地域の皆さまの方が状況を良く分かっているので、危険が予想される箇所について、事前に建設部維持課や道路課にご相談いただきたい。倒れる前に切るのが一番良いが、その辺も現地の状況を見ながら、対応できるものから対応してまいりたい。

〔横田建設部長〕

『担当課：総務部危機管理防災課、建設部河川課、農林部農地整備課』

＜２　富士の塔の砦跡修復と山頂への歩道修復について＞
《提　案》
　富士の塔砦跡については、防災無線工事の際に一部破損した。現在は工事後のまま放置されているので、地元の記憶が定かのうちに、復旧をお願いしたい。
　林道から展望台に通じる歩道の階段については、急な斜面のため段差が大きい個所が複数あることに加え、土砂の流出により路面が削られ、段差がさらに増している。路面状況も全般的に良くない状況にあるため、修復をお願いしたい。

《回　答》
　危機管理防災課が、令和２年１月から行った防災行政無線のデジタル化事業に伴う中継局の設置工事で、昨年、富士の塔砦跡において、埋蔵文化財保護に関しての認識不足により、埋蔵文化財包蔵地であることを確認せず工事を実施してしまったため、地域の皆さまをはじめ、市民の皆さまの大切な文化財である富士の塔砦跡の一部を破損してしまったことをおわびする。
　砦跡は、現在教育委員会（埋蔵文化財センター担当）において、土のう袋を積み重ねて応急的な保護処置をしているが、これは、これ以上の崩壊を防ぐという一時的なものである。
　完全に元の状態に復元することは難しいが、これ以上の崩壊を防ぐとともに、景観に考慮して緑化ネットを張ったり、表面を緑化用土のう袋に置き替えたりするなど、教育委員会に相談しながら対応することを検討したい。

〔宮下危機管理防災課長〕

　市では、小田切遊歩道を含めた 17 路線の遊歩道のほか、国が設置し市が管理している遊歩道が２つ、また６つのトレッキングコースを市内に用意し、市民や観光客にご利用いただいている。
　当該遊歩道の階段は、一部の箇所に崩落や土砂流出等により、階段の段差が大きく路面状況が悪い箇所があるため、令和５年度以降に修復工事が実施できるよう検討したい。
　それから、階段下の東屋についても基礎の部分が浮いているような状況になっており、風等による倒壊の恐れもあるので、こちらは来年度には早急に手当てをしていきたい。
　また、工事実施に際しては、富士の塔砦跡の文化財保護の観点から、教育委員会と調整して工事を進めたい。

〔中村商工観光部長〕

《質　問》
　砦の修復について、今は土のうが積まれているが、「信濃の山城」という本の「富士ノ塔の砦」という項目に記載されているような状態に復旧をお願いできないか。私どもも立ち会わせていただけないか。一緒に検討させていただければありがたい。

《回　答》
　どのような復旧復元ができるかについては、教育委員会の埋蔵文化財担当と相談したうえでとなるが、土を取るのも盛るのも問題があるので、土のうの緑化を進める中で、できる範囲で考えさせていただきたい。

〔宮下危機管理防災課長〕

　教育委員会の埋蔵文化財担当は文化財を保護する立場だが、市の内部の情報伝達、しっかりとした周知がなされていなかったことで、このようなことが起こってしまったことに改めましておわび申し上げる。
　復元の方法等については、埋蔵文化財センターと危機管理防災課と相談しているが、当然地元の皆さまとも協議をしながらということになると思うので、日程等について住自協に連絡をさせていただきたい。

〔藤澤教育次長〕

『担当課：総務部危機管理防災課、商工観光部観光振興課、教育委員会事務局文化財課』

令和４年度「ながの未来トーク」集約表

【自由討議】

＜１　国見のイチイの樹勢について＞

《意　見》

国見のイチイは昭和 42 年に指定を受けた市の文化財であり天然記念物であるが、上部に枯れが広範囲で目立つため、樹木医による診断等で樹勢回復をお願いしたい。

《回　答》

国見のイチイは、胸高周囲約７m、樹高約 19m、樹齢は推定で約 700 年、市内最大級の大きさを誇るイチイの名木である。昭和 42 年 11 月１日付けで市指定天然記念物として指定したものである。

10 月４日に文化財課職員が現地で確認したところ、樹木全体が、ススがかかったように黒くなっており、葉には白い虫がついている状態であった。また、本年４月のパトロール時より枯れ枝が増加しており、急を要する状態であると判断したことから、樹木医に写真を送付し状況を説明した。

その結果、樹木全体にカイガラムシ被害が広がったこと（＝カイガラムシの激害化）によるスス病で、当面の措置として、雪が降る前に薬剤散布（カイガラムシの殺虫剤＝ラビサンスプレー200 倍希釈液とアブロードフロアブル 1000 倍希釈液を混合）が必要、との判断を得た。このことは、国見のイチイの管理者で本議題の提案者ある国見総代の吉村邦一氏にお伝えした。

このような状態になったのは樹勢が弱っていることが原因と考えられ、今後の樹勢回復については、11 月 24 日に予定する樹木医診断の結果を待つ必要がある。

なお、樹勢回復措置は、あくまでも所有者・管理者が実施するもの。市では、文化財の管理、修理、保存に関する経費の補助を用意している。方策等決まったところで、文化財課と協議しながら進めていただきたい。

大切な地域の宝である国見のイチイを後世に引き継ぐため、今後とも市と地域との協働により保存に努めていきたい。

〔藤澤教育次長〕

『担当課：教育委員会事務局文化財課』

＜２　その他＞

《意　見》

電子マネーの浸透が進むなどのデジタル化が高まる中で、情報格差（デジタルデバイド）により高齢者など自分の情報が得られない環境になりつつことを危惧している。

「広報ながの」は内容も充実しており、紙媒体での全戸配布を継続してほしい。

《回　答》

「広報ながの」の効果等を検証するために、市でも定期的にアンケート調査を行っており、現行の紙媒体での配布が良いという方が７割ぐらいいる。高齢者の方を中心に紙媒体の広報ながのに非常に馴染んでいただいているが、一方で、住自協などから毎月の配布について結構な手間であるとのお話もある。

全国的には、長野市同様の毎月冊子での配布のほかに、新聞折込のチラシ形式やデジタル形式も出てきている。

当面は、市民の多くが冊子での配布を希望されているので現状を継続していきたいと思っているがが、今後の情勢やご意見を参考にしながら検討させていただきたい。

デジタルデバイドの解消については、市でも今年度から、例えばスマートフォンの使い方教室などを始めた。電子機器はこれからは無くてはならないものになってくるので、高齢者の方も含めて馴染んでいただく、操作を簡単にやっていただく支援を市としてもやってまいりたい。

〔下平企画政策部長〕

《意　見》

国ではマイナンバーカードを積極的に進めていて、健康保険証や運転免許証との紐づけなど、ゴリ押しで国民にカードを押し付けたいような感じを受けている。また、その達成条件によっては地方自治体への交付金にも差をつけるような姑息な手段を使い、普及率もようやく約５割を超えたが、さらに上げたいということであの手この手でやっているようだが、長野市としてはその辺についてどのようにやっていく考えをお持ちなのか伺いたい。

《回　答》

マイナンバーカードの取得については、全国的にいろんなことをやっている。全国平均は５割を超えたところだが、長野市はそれよりも８ポイントほど低い状況である。国でも、保険証としたり、さまざまなデジタルによる行政サービスに対応するということで、取得を推進している。

市としても、取得を推進していくというのが基本的な姿勢であり、特に 12 月までは国の施策により、カードを取得し保険証と紐づけるなどにより最大２万円のポイントを付与することもやっているので、広報、周知を図っている。

マイナンバーカードの取得率が平均を超えないと、例えば地方交付税に若干の差が生じたり、デジタル田園都市構想交付金の一部のメニューが申請できないなど不利益になることもあるので、市とすれば希望される方には早めにとっていただけるような形で推進したいと考えている。

〔下平企画政策部長〕

令和４年度「ながの未来トーク」集約表

【その他】

《山岸小田切支所長》

小田切の皆さまの日ごろのご不安は身にしみて感じている。小田切の地域福祉は、保健福祉というより、本日の議題でもある土砂災害や、ごみの不法投棄や交通の問題など、多岐にわたっている。

本日も横田建設部長から「倒木等の恐れがある場合は遠慮なく申し付けていただきたい」との力強いご発言があったが、支所に申し出ていただければ、より詳細に本庁に伝えて、危険除去からお願いしたいと思っている。

ただ、答弁にもあったが、最終的には地権者に自己負担をお願いすることも承知しており、最近も自己負担を理由に復旧を取りやめるという例をお伺いしている。本日、いろいろな制度があると説明があったが、まずは、支所にご相談いただきたい。

《市長総括》

富士ノ塔の砦跡については、重ねておわび申し上げる。これは砦が無くなったというより、地域の皆さまの心の拠り所が無くなってしまったと受け止めたので、ぜひ皆さんと一緒に、完全に復旧するかどうか分からないが、できる限りの対応はさせていただきたい。

マイナンバーカードについては、私が実施している毎朝のラジオ体操の場でも疑問の声を聞いている。カードの利便性が分からず実感できないというのが、普及が進まない現状かなと思う。

これから、例えば免許証と一体になるというようなことになれば、カードの利便性なども出てくるかもしれないが、国からの交付金に影響してくるというようなことも考えると、市としてはできる限りカードの取得促進をやっていかないと非常に厳しい状況に置かれかねないということで、皆さまにご協力いただきたいと思っている。

地域の防災減災につきましても、私も土尻川の期成同盟会の会長を務めているので、引き続き県にもしっかりと働きかけをしてまいりたいと思っている。